



1 「幸水」の生育状況

- ・着果量：平年並み～やや多い園地が多い。園地によるバラツキが大きい。
- ・肥大：満開68日後(6/15)の横径は、39.3mmと前年、平年に比べ小さい。
(前年比93%、平年比96%)。※R2年度から調査樹をすべて変更

2 病害虫防除

<発生状況>

- ・黒星病：春型病斑の発生量は、前年に比べ少なく、平年に比べ多い。前回(5/19)調査時よりも発生園地、発病果そう率が増加。
※参考資料(黒星病の発生状況：6月15日時点)参照
- ・木材腐朽菌：萎縮症状がやや多い。
- ・赤星病：前年に比べ少なく、微～少発生。
- ・ナシヒメシンクイ：フェロモントラップへの誘殺は、前年、平年に比べ多く、発生時期が早い。
- ・モモチョッキリゾウムシ：一部園地で局所的に多発生。
- ・ニセナシサビダニ：前年に比べ多いが、発生量は少ない。
- ・チャバネアオカメムシ：フェロモントラップへの誘殺は、平年に比べ少ない。
- ・ハダニ類：未確認。

<ポイント>

- ・薬剤散布：散布予定日に降雨が予想される場合は、前倒しで実施し、散布間隔がひらき薬剤の効果が切れる期間を作らない。また、薬剤の散布ムラが発生しやすい園地外周部は、往復走行で薬剤の付着量を高めるとともに、往復散布ができない四隅は補正散布を行う。
- ・黒星病：「幸水」は6月下旬頃から果実が感染しやすい肥大最盛期を迎える。収穫期の果実病斑を少しでも減らすため、梅雨明けまで、春型病斑を摘み取り園地外で処分するとともに、発生状況(多発生)に応じて薬剤を変更する。
- ・木材腐朽菌：なし樹にきのこ(子実体)の発生を確認した場合は、早めにきのこを除去して園地外で処分し、きのこからの胞子の飛散を防ぐとともに、腐朽部分は、削り取り、保護殺菌剤を塗布する。

<薬剤防除> 黒星病の発生が少ない園地

回数	散布時期の目安	散布薬剤と希釈倍率	10a当たり散布量	対象病害虫	実施日(自己記入)
10	6/25 ~27	フロンサイド水和剤 1,500倍 ダニサラバフロアブル 2,000倍	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 ハダニ類	
11	7/4 ~6	アミスター10フロアブル 1,000倍 スミチオン水和剤40 1,000倍 ※収穫21日前まで	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 うどんこ病、炭そ病 ハマキムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類	
12 ※	7/14 ~16	オキシラン水和剤 500倍 ノーマルト乳剤 2,000倍	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 シンクイムシ類、ナシホソガ、ナシチビガ	
13	7/23 ~25	オーソサイド水和剤80 1,000倍 ※収穫3日前まで スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 ※収穫前日まで	350ℓ	黒星病、赤星病、輪紋病 シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、アブラムシ類、コナカイガラムシ類	

※9回目防除を6/15~17とし、新水等、早生品種の収穫開始を7月28日頃とした場合

<薬剤防除> 黒星病の発生が多い園地: 散布間隔を短くし、特別散布を行う

回数	散布時期の目安	散布薬剤と希釈倍率	10a当たり散布量	対象病害虫	実施日(自己記入)
10	6/25 ~27	フロンサイド水和剤 1,500倍 ダニサラバフロアブル 2,000倍	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 ハダニ類	
11	7/2 ~3	アミスター10フロアブル 1,000倍 スミチオン水和剤40 1,000倍 ※収穫21日前まで	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 うどんこ病、炭そ病 ハマキムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類	
12	7/9 ~11	オキシラン水和剤 500倍 ノーマルト乳剤 2,000倍	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 シンクイムシ類、ナシホソガ、ナシチビガ	
特 散	7/16 ~28	ミギ720フロアブル 4,000倍	350ℓ	黒星病	
13	7/23 ~25	オーソサイド水和剤80 1,000倍 ※収穫3日前まで スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 ※収穫前日まで	350ℓ	黒星病、赤星病、輪紋病 シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、アブラムシ類、コナカイガラムシ類	

※9回目防除を6/15~17とし、新水等、早生品種の収穫開始を7月28日頃とした場合

・農薬散布にあたっては、①ラベルを必ず確認し、②周辺の作物や住宅への飛散に注意してください。

3. 今後の管理

<ポイント>

- ・ **着果管理**：着果量が多く仕上げ摘果が遅れている園では、なるべく早めに仕上げ摘果を実施する。
- ・ **新梢管理**：予備枝や陰芽から発生した新梢は、7月（新梢伸長停止後）に誘引し、花芽の着生を図る。ただし、着果不足等で新梢の伸長が旺盛な樹は、芽かきや夏季剪定を行い、受光環境を良好に保つ。
- ・ **土壌水分管理**：排水不良による黄変落葉や裂果を防ぐため、明きよ等の排水路を点検し、排水口につながるように手直しをしておく。
- ・ **土壌水分管理**：無降雨日が5日間続いた場合はかん水を実施する。特に高温・乾燥が続くような場合は根域まで浸透するよう十分に行う。
- ・ **収穫準備**：今年の「幸水」の収穫開始は、8月上旬と予想され、前年、平年より早まると見込まれる。さらに、今後寡日照多雨となった場合は、果肉が先熟し、さらに早まる可能性もある。計画的に収穫、販売の準備を進める。

<お知らせ①>

- ・ 下野方梨組合 畑まわり 6月22日（木） 9：00～ 林寿男園集合

<お知らせ②>

- ・ 次号は、7月25日頃の発行を予定しています。

<問い合わせ先> JAうおづ 営農課 吉崎 24-9923